

決算状況を 報告します

9月8日から30日まで開かれた市議会第3回定例会で、令和3年度の一般会計など6会計の決算が認定されました。

本号では決算の内容を、財政の健全度を示す指標と併せて紹介します。詳しくは市ウェブサイトで確認してください。

■問い合わせ先 企画財政課財政係（☎・内線1201）



詳細はこちら

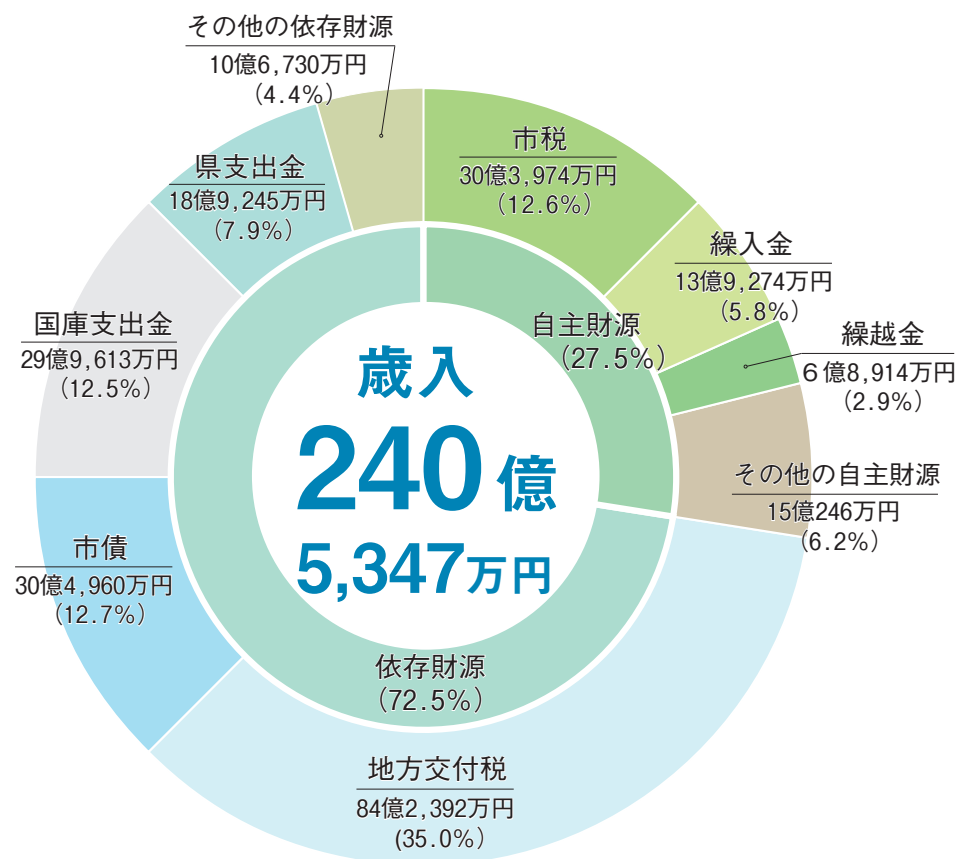
歳入

地方交付税は5・6%増
自主財源比率は1・3ポイント増

3年度の一般会計の歳入(収入)は、240億5347万円でした。

一番多くの割合を占めたのは、地方交付税の84億2392万円、前年度より4億4909万円多くなっています。次に多いのが、市債の30億4960万円(前年度より6億1830万円の増)で、3番目が市税の30億3974万円(前年度より2412万円の増)となっています。

歳入のうち、市が自主的に徴収できる自主財源は66億2408万円で前年度より2億9765万円多くなり、国や県などから交付される依存財源が174億2940万円で前年度より4億5404万円減少、前年度に比べ自主財源比率が1・3ポイント多くなりました。



※歳入歳出ともに、金額は1万円未満を、割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

歳出

繁殖育成センター整備など
農林水産業費が71・7%増

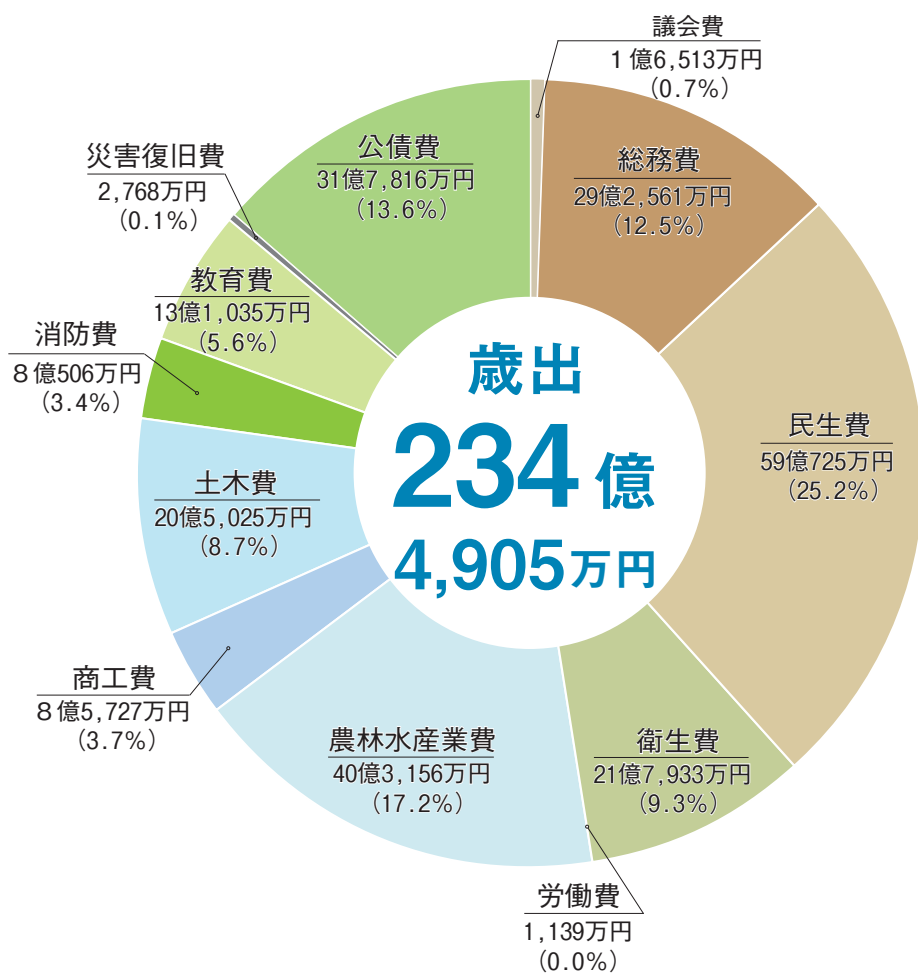
一般会計の歳出(支出)は、234億4905万円でした。

一番多くの割合を占めたのは、民生費の59億725万円で、子育て支援、障がい者や高齢者の福祉サービス、生活保護などに加え、松尾保育所整備事業や新型コロナウイルス感染症緊急経済対策関連経費として、住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業などを行いました。前年度より16億1446万円減少しています。次に多いのが農林水産業費の40億3156万円で、例年行っている事業に加え、繁殖育成センター整備事業などを行い、前年度より16億8342万円の増となりました。

財政の弾力性を示す経常収支比率

(※1)は前年度より1・1^{ポイント}改善し、97・2%、財政力指数(※2)は前年度と同数の0・30でした。また、地方債残高は前年度より1億183万円減少し、172億2864万円となり、基金残高は前年度より6億536万円減少し、66億13万円となりました。

市は、より一層の経費削減などに努め、今後も効率的な行財政運営を目指していきます。



※1 經常収支比率

人件費や扶助費、公債費の義務的経費などに充てた一般財源の額を一般財源の総額で割ったものです。数値が低いほど財政運営に弾力性があり、政策的に使えるお金が多くあることを示しています。

※ 2 財政力指数

市税などの基準財政収入額を基準財政需要額で割って得た数値の過去3カ年の平均値です。数値が高いほど財源に余裕があることを示しています。

◆ 3年度の主な事業(抜粋)



松尾保育所整備事業



新型コロナウイルスワクチン接種事業



平舘コミュニティセンター整備事業

◆特別会計・企業会計の決算状況

会 計 名		歳入決算額	歳出決算額
国民健康保険(事業勘定)		32億9,869万円	32億1,557万円
後期高齢者医療		2億9,213万円	2億9,169万円
水道事業	収益の収支	5億4,430万円	4億8,716万円
	資本の収支	2億4,047万円	4億4,073万円
下水道事業	収益の収支	11億2,396万円	10億3,296万円
	資本の収支	4億1,349万円	1億4,067万円
病院事業	収益の収支	17億7,831万円	16億4,389万円
	資本の収支	1億7,380万円	2億 16万円